

セレスポ

第 42 期
事業報告書

— 2018年4月1日から2019年3月31日まで —

私たちの仕事は、特別な日を創る事です

株式会社セレスポ

証券コード：9625

「イベント・ソリューション・パートナー」の実現に向けて

株式会社セレスポは1977年の創立以来、地道に業容を拡大しながら着実に成長してまいりました。2018年4月よりはじまりました中期経営計画Ⅳ（以下、中計Ⅳ）では経営理念である「セレスポの幸福」の考え方を全社一丸となって実践し、持続的な成長が可能な企業となれるよう取り組んでおります。

Q 2019年3月期を振り返りお話を聞かせてください。

A これからの時期に最大収益を追求する準備が着実に進みました。

2019年3月期は増収増益を逃しましたが、それは案件単価の高い競争事業[※]を失注した結果であり、当社の事業の基礎となる基本事業などの売上は4%ほどの伸びを示しています。基本事業などの全体に占めるシェアは90%なので、売上の基礎の部分は着実に成長しています。これらのことから当社の実態としては成長途上にあると想定して、この先の計画やビジョンを検討しております。

競争事業は年度の業績に対する変動要素ではありますが、受注の際には業績を大きく押し上げるので毎年挑戦しています。当社はこの8年間で5回受注しその業務品質には高い評価を得ております。ただし、競争事業の特質として特定の企業が毎年継続的に受注できるわけではありません。

※ 競争事業：皇室ご臨席行事を中心とした全国持ち回りで開催される案件

2019年3月期は、この失注した分の金額を補填する施策を立てて半分ほどは穴埋めしましたが、全額をカバーするまでには至りませんでした。むしろ、第3四半期を迎える頃には、2019年、2020年の業務に対する関係者の活動が一気に本格化してきたので、要員などをこの先の準備にシフトするほうが、中計Ⅳの期間中の収益は増えると判断しました。この方針により、2018年の11月30日に業績の下方修正を開示いたしました。

前述の要員などのシフトにより、目前に迫ったゴールデン・スポーツ・イヤーズ（2019年～2021年）に対する準備は順調に進みました。とくに、各スポーツの中央競技団体などと人員の交流を進めてきたことの効果が確認されています。中計Ⅳの期間における最大収益の追求はよいスタートを切ったと言えます。

また、ひとつことつけ加えると、準備をした項目の中には2019年4月1日に施行された改正労働基準法の内容に合わせての業務の見直しと効率化も含まれます。

Q 中期経営計画Ⅳについての進捗をお聞かせください。

A 中計Ⅳで目指すのは「継続企業の確立」「最大収益の追求」「レガシーの獲得」です。この3点についてご説明いたします。

継続企業の確立：一番大切なことは、周囲の各ステークホルダーとの良好な関係を構築することです。そのためには経営理念である「セレスポの幸福」を実践することが必要です。社長を始めとした役員が、社員に対して部署訪問、各種教育や研修、所属長会議などにおいて、繰り返し説明しており意識は高まっています。

そのほか、継続企業となるために必要な「収益力、成長力、人材創造力、ブランド力、企業統治力」の水準を向上させるために、2020年3月期計画を作成し各種施策を実行しています。

最大収益の追求：中計Ⅳの期間には、ラグビー・ワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックなどの国際的スポーツ大会が開催されます。それらに加え、企業や自治体が行う関連行事も出てきます。現在はそれらのスポーツ・イベントや関連行事の受注に向けての営業活動に全社を挙げて注力しています。まだ全体像は明らかになっていませんが、受注間近の案件もいくつか確認できています。

レガシーの獲得：社会全体が熱気を帯びるこれからの期間に、2021年以降も共に成長していける優良顧客を開発し

てまいります。協力関係にある会社との連携も通じて、イベントやスポーツ競技において必要とされる付加価値の高いスキルを身に付けていくことにしており、順調に進捗しております。

中計Ⅳの3年間は当社にとって千載一遇のチャンスです。この中計Ⅳを全社一丸となって実行することで、2022年3月期からはじまる中期経営計画Ⅴで実現してまいります。

Q 株主還元についてお聞かせください。

A 利益還元に力を入れてまいります。

当社は経営理念にある「株主の幸福」という考え方に基づき、株主の皆さまへの利益還元を実現すべく、ここ6期にわたり増配を重ねてきました。今期の1株当たりの配当42円は、9年前の6円と比較すると7倍になりました。当初は目安となる配当性向を設定していましたが、ゴールデン・スポーツ・イヤーズにおけるBefore/on/Afterの期間には業績の振幅が大きくなるのが予想されるので、実額において安定的な配当を行うことへ方針を転換しました。

また、2018年3月期より、当社に対する理解を深めていただくために、また利益還元に幅を持たせるべく、株主優待制度を導入して、当社が業務で関わりのあるスポーツや飲食などのイベントへのご招待を開始いたしました。

2019年3月期は減収減益ではありますが、それは競争事業の1案件の失注によるものであり、当社事業の基本的な部分では成長の途上にあることは前述のとおりです。

企業として現在も成長途上であり、この先の2020年3月期と2021年3月期には、今だかつてない業務量が見えています。今回の増配は、これからさきの成長に対する私たちの自信と想いを伝えるメッセージです。

株主の皆さまには引き続き一層のご支援・ご鞭撻を賜りますとともに、今後のセレスポのさらなる成長と飛躍にご期待ください。

以上

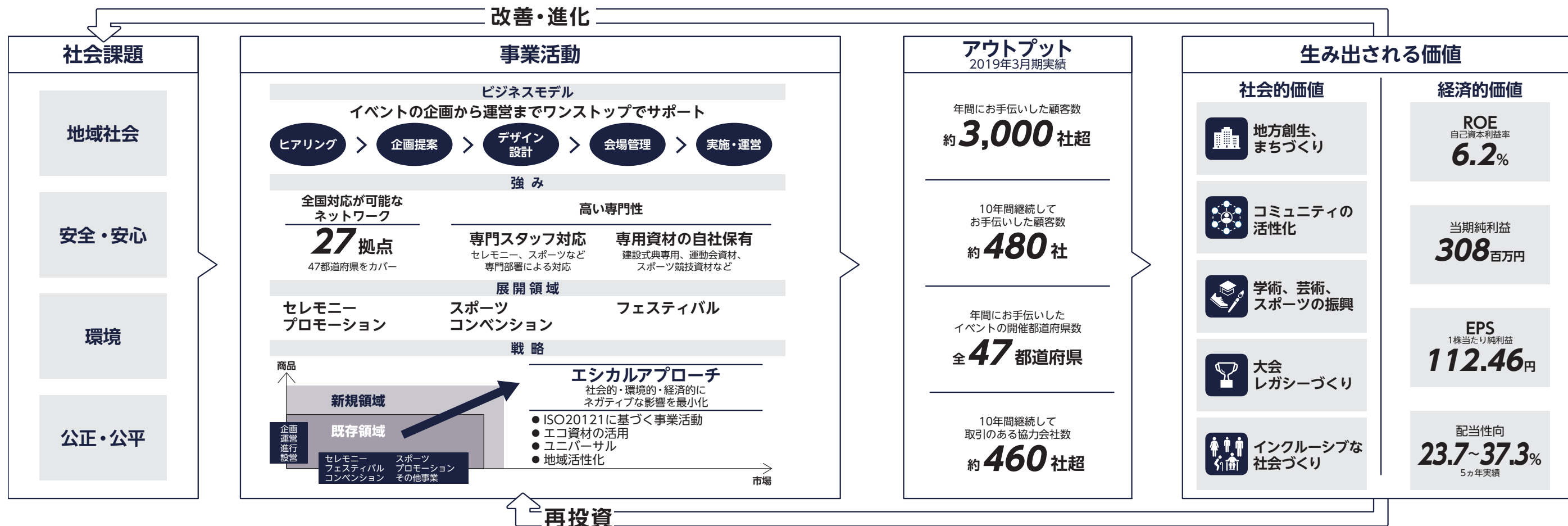


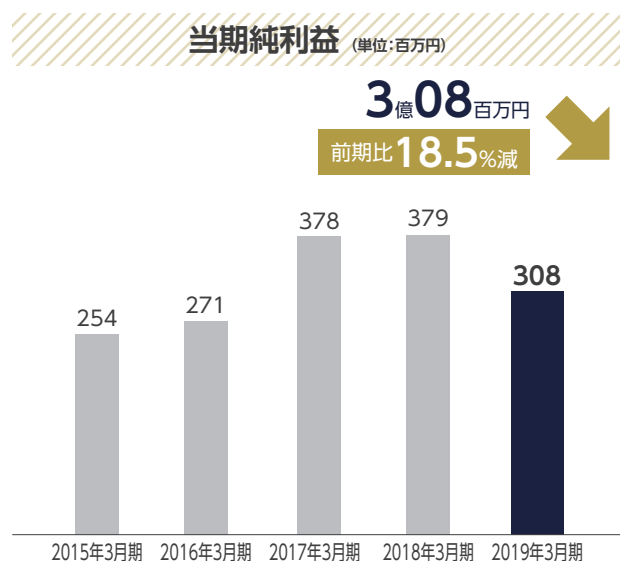
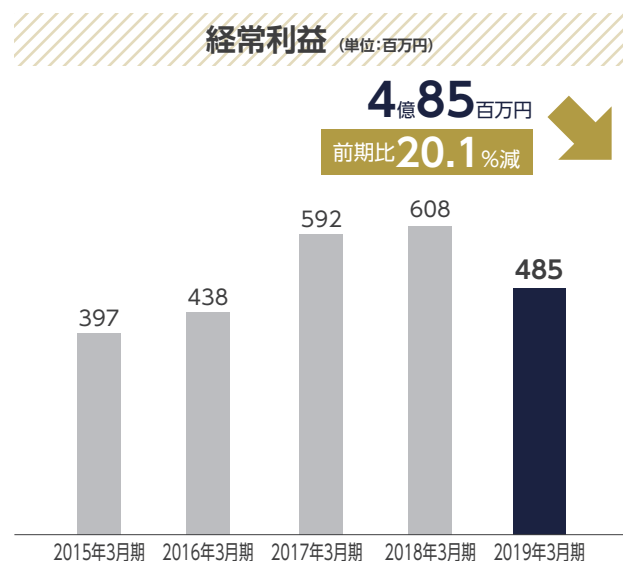
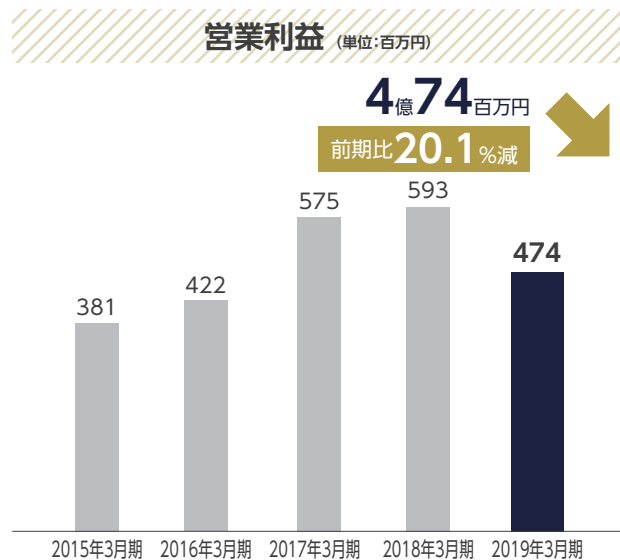
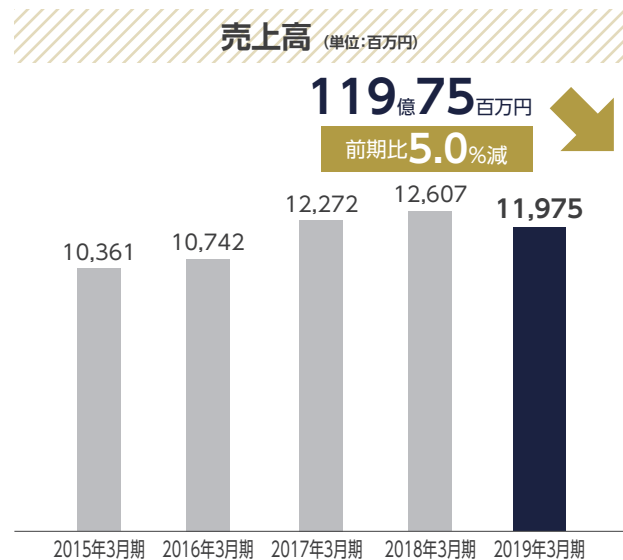
代表取締役社長

稲葉利彦

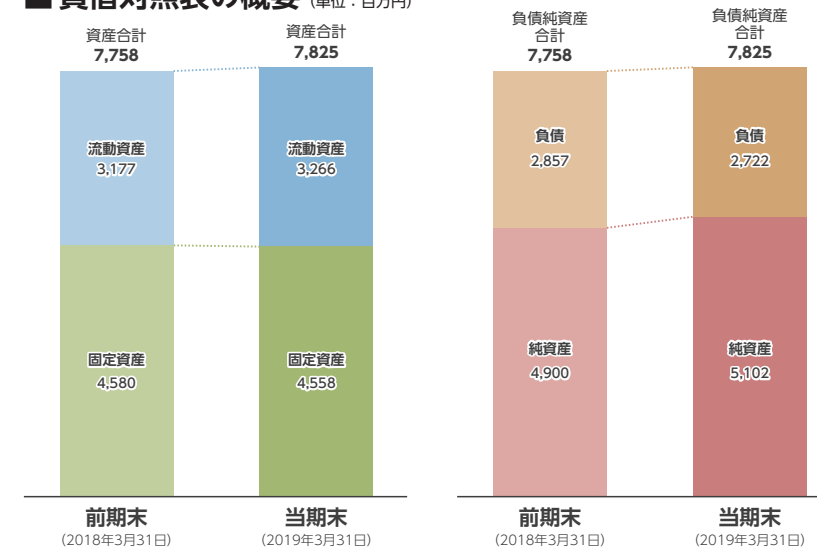
当社のビジネスモデルは、直接体験の場であるイベントを通じて顧客の目的実現に向けた課題の解決をワンストップでサポートしていくことにあります。経営理念である「セレスポの幸福」では「イベントを通じて自らを含む周囲の幸福を実現し、笑顔のある明るい社会づくりに貢献する」ことを掲げ、これを実現するために当社を取り巻く株主・顧客・取引先・社会・社員などのステークホルダーと良好な互惠関係を築くことを全ての活動の起点としております。

今後も持続的成長を目指す企業として時代の求める変化に適応するために、経済的価値に加え、イベントを契機とする社会的価値の創出に努めることで、社会に信頼され、ステークホルダーと共に成長を続けられる「イベント・ソリューション・パートナー」を目指してまいります。





■ 貸借対照表の概要 (単位:百万円)



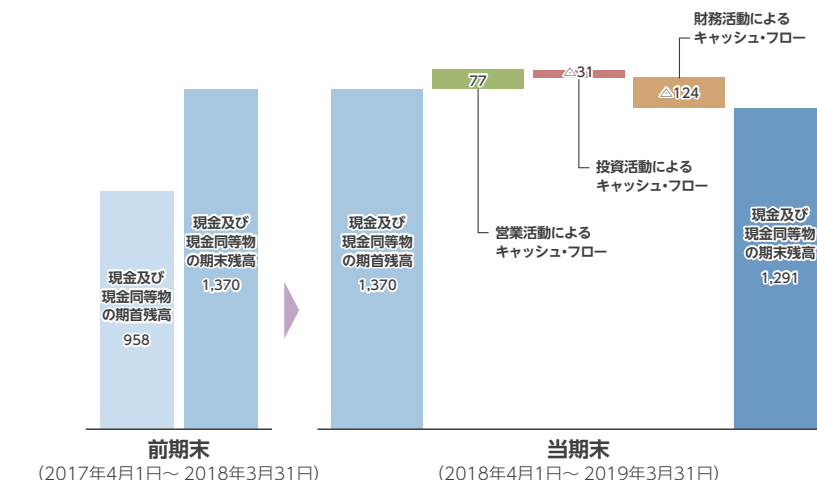
■ 自己資本比率

65.2%
前期比2.0pt増

■ 自己資本当期純利益率 (ROE)

6.2%
前期比1.8pt減

■ キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



売上の基盤(売上構成比90%)である基本事業・スポーツ事業は堅調に推移

2018年3月期までイベントを形式ごとに整理してセレモニー・スポーツ・フェスティバル・プロモーション・コンベンションの5部門を設定しておりましたが、2019年3月期（以下、当期）より、中期経営計画Ⅳ（以下、中計Ⅳ）に基づく営業戦略に合わせて基本事業、スポーツ事業、競争事業の3部門による販売状況を開示しております。

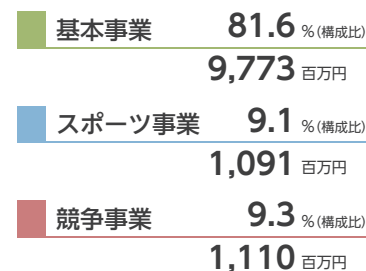
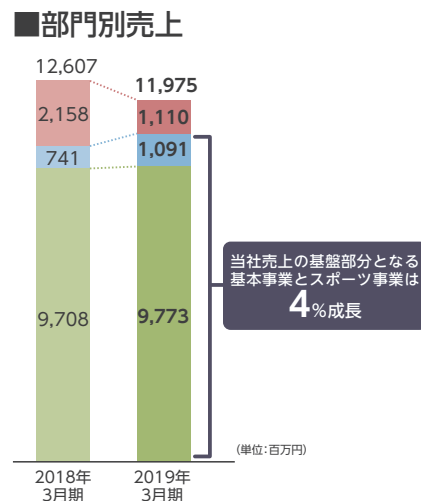
当期は、2018年11月30日付け「業績予想の修正及び中期経営計画Ⅳの修正並びに配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」にてご報告しましたとおり、売上高につきましては、主として第3四半期を中心とする競争事業における大型入札案件の受注が前期に比べ不調となりました。

案件単価の上昇等を図りましたが、この減収分をカバーするには至らず、631百万円の減収となりました。

費用につきましては、売上原価率は前期と横ばいである一方、前期に計上したシステム導入関連費用が減少すると共に、「働き方改革」推進に伴う人件費の減少等により、販売費及び一般管理費が88百万円減少しました。以上の結果、当事業年度の業績は下記のとおりとなりました。

売上高	11,975百万円	(前期比 5.0%減)
営業利益	474百万円	(前期比 20.1%減)
経常利益	485百万円	(前期比 20.1%減)
当期純利益	308百万円	(前期比 18.5%減)

来期以降に向けた国際的スポーツ大会の準備が既に本格化しており、人員配置を含む社内の体制整備を迅速に進めるとともに、労務費・資材費等の高騰などの外部環境要因に適切に対応することで、中計Ⅳに掲げた「最大収益の追求」の実現を図ってまいります。



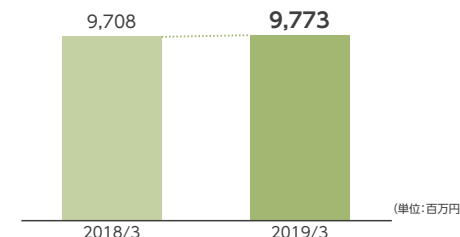
各部門別の状況は次のとおりであります。

基本事業 各営業拠点が担当する、様々なイベント領域
 主なイベント：建設式典、記念式典、地域振興イベント、プロモーションイベントなど

97億73百万円 (前期比0.7%増↑)

建設式典および販促イベントの小規模案件数の減少によって受注額が減少しましたが、フェスティバルなどにおける案件の請負範囲が拡大したことによる受注単価の上昇と、スポーツイベントが増加したことにより、売上高は9,773百万円と前期比0.7%の増収となりました。

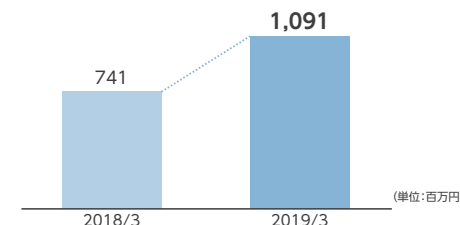
(注) 基本事業部門におけるスポーツとは、下記スポーツ事業の領域以外のスポーツイベント（地方自治体や民間企業などの主催）を意味しております。



スポーツ事業 中央競技団体等が開催するスポーツ・競技に関するイベント領域
 主なイベント：日本陸上選手権、トライアスロン大会、Vリーグ、日本女子ソフトボールリーグなど

10億91百万円 (前期比47.3%増↑)

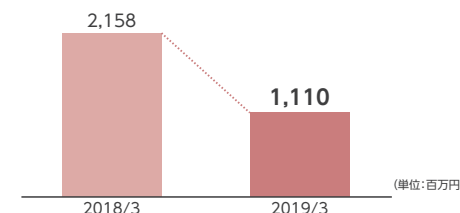
既存の大規模スポーツ大会の受注と新規の大会の受注数が増加したことにより、売上高は1,091百万円と前期比47.3%の増収となりました。



競争事業 皇室ご臨席事業を中心とした全国持ち回りで開催されるイベント領域
 主なイベント：国民体育大会、全国高校総体、植樹祭、育樹祭など

11億10百万円 (前期比48.5%減↓)

大型入札案件の受注が減少したことにより、売上高は1,110百万円と前期比48.5%の減収となりました。



社会貢献活動

当社は、経営理念を実現させるために、ISO20121^{※1}に基づき、サステナビリティに積極的に取り組んでおります。この一環として、スポーツ分野を中心にさまざまな社会貢献活動を行っております。これらの取り組みが認められ、昨年度に引き続き、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」^{※2}、東京都より「東京都スポーツ推進企業」^{※3}に選定されました。

※1 ISO20121：イベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの国際標準規格

※2 スポーツエールカンパニー（英語名称：Sports Yell Company）：スポーツ競技に限らず、社員の健康増進のためスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業をスポーツ庁が認定する制度

※3 東京都スポーツ推進企業：社員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みや、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を東京都が認定する制度

サステナビリティ

「ISO20121」への取り組み推進

当社が、「ISO 20121」の認証を取得し3年が経過しました。今後も組織の成長と社会の変化に合わせて、定期的な見直しと進捗管理を行いながら、取り組みを進めてまいります。



「サステナブルイベント・セミナー」の開催

サステナビリティの普及のために、セミナーを開催しています。「パラスポーツ×ビジュアルコミュニケーション」「スポーツイベントとSDGs」などを開催し、さまざまな切り口からネットワーク拡大に取り組んでおります。



スポーツ分野

「TEAM BEYOND」への参加

パラスポーツを応援する人を増やす東京都のプロジェクト「TEAM BEYOND」が開催するイベントに協力し、来場者の皆さまにパラ陸上体験を提供し、競技の魅力を体感していただきました。



「ラグビーをもっと楽しもう！」イベントブースの出展

花園ラグビー場のオープニングに合わせて、ミニ運動会とパラ陸上ブースを出展。ラグビーボールを使った運動会競技や競技用車いすを使ったタイムトライアルなどの体験をしていただきました。



「オールキッズトライアスロン大会」への協賛・ボランティア

未来のアスリートを支援することを目的とした大会に協賛すると共に、社員が運営ボランティアとして参加しました。頑張る子供たちを応援し、大会を盛り上げることができました。



陸上部の取り組み

3名の所属選手は、自身の夢に向かって日々トレーニングを行い、競技大会へ出場をしています。各拠点近隣の子供たちへの陸上教室を開催するなど、明るい社会づくりにも貢献していきます。



学校教育へのコンテンツ提供

中学校でのパラスポーツ体験会や社会科見学の受け入れなどを行いました。今期から、東京都の教員研修の受け入れもはじめ、イベントコンテンツを教育現場に生かすためのワークショップも行いました。



愛媛県スポーツ協会への義援金の贈呈

2018年7月の西日本豪雨の被災への義援金の支援を行いました。県内のスポーツ少年団の大会等さまざまなスポーツ振興に役立てていただきました。



IR活動

当社は経営の透明性を高めるため、情報開示をはじめ投資家向けの説明会を定期的を開催しております。

2018年度開催 アナリスト向け：6月1日・12月3日（ともに東京）
個人投資家向け：6月30日（さいたま）、7月9日（大阪）、8月7日（東京）、
12月16日（千葉）、1月19日（名古屋）

開催情報、並びに説明会資料は当社Webサイトにてお知らせしております。

<https://www.cerespo.co.jp/ir/>

株式情報 (2019年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	11,000,000株
発行済株式の総数	2,851,750株
株主数	1,390名

株主メモ

証券コード	9625
1単元の株式数	100株
事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月中
配当金受領株主確定日	期末配当金3月31日

大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率
株式会社スマイル	550,000	20.00%
セレスポ従業員持株会	277,350	10.08%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	258,600	9.40%
三木 征一郎	77,862	2.83%
稲葉 利彦	54,472	1.98%
東海東京証券株式会社	50,900	1.85%
衣笠 純	47,300	1.72%
北原 美子	47,300	1.72%
日本証券金融株式会社	36,800	1.34%
丸山 勇	28,000	1.02%

(注) 1. 当社は、自己株式を101,445株保有しておりますが、上記株主からは除外しております。

2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

会社概要 (2019年6月21日現在)

商号	株式会社セレスポ (英文社名: CERESPO CO.,LTD.)		
本社所在地	東京都豊島区北大塚1-21-5		
設立年月日	1977年7月21日	資本金	13億7,067万円
事業分野	イベント、スポーツ大会、プロモーション、式典、レクリエーション		
事業内容	1. 企画、制作、会場設営、運営および進行 2. 上記に関わる物品・什器備品の企画、開発、製造、販売およびレンタル 3. 土木ならびに建築の設計監理および施工 4. 警備業 5. 上記に附帯する一切の業務		
従業員数	402名 (注)		

(注) 従業員数は、正社員、顧問、嘱託の合計人数が記載されております。

取締役会 メンバー

代表取締役社長	稲葉 利彦
専務取締役	田代 剛
常務取締役	鎌田 義次
常務取締役	生田 茂
取締役	宮田 一哉
取締役	堀貫 貴司
取締役	松田 英彦
社外取締役	野末 正博
常勤社外監査役	松井 敏彦
監査役	水越 潤
社外監査役	奥田 かつ枝